

法政大学学術機関リポジトリ  
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

甲第七十二号

---

(発行年 / Year)

1910

第千八十七條 外國ニ在ル日本人ハ第千六十九條ニ定メタル方式ニ從ヒ又ハ其國ノ法律ニ依リテ定マリタル方

式ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人ハ公正證書又ハ祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ

公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

(参照)取三八〇、法例四九佛九九九蘭九九二伊法例九ヴォ一六五九ヅユーリヒ法例四五、葡一九六一乃至一九六四、西七三二、七三四、白草八一一、索九

第千八十八條 日本ニ在ル外國人ハ本節ニ規定ハ其本國法ノ規定ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

(参照)取三八二、法例九一〇

# 祕

## 甲第七十二號

明治二十九年十一月九日配付

### 第三節 遺言ノ效力

第千八十九條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其効力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

(参照)取三九〇、一項乃至三項佛八九五、一〇二二〇、二〇三、一〇一四澳五五二、六八四、六九九蘭一〇〇五一〇〇六、伊八四八、八六二、八六三、ダラツビヨンデシ五〇一、フューリヒ一〇二七一〇三〇西六六七、七九〇乃至八〇五百草八二二、八二三、八九六九〇、九〇六獨一草一七六〇乃至一七六二、一八六五一、八六七同二草二〇四五二〇四七二〇、四九

第千九十九條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得

(参照)取三九〇、四項西八八九八九〇、獨一草一八七三同二草

第十九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ受諾又ハ抛弃ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ハ之ヲ受諾シタルモノト看做ス

(参照) フューリヒ一〇一二三

第十九條 受遺者ハ遺產相續人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

(参照) 取三九〇一項(佛八九五、一〇〇三乃至一、一三、一〇七、澳五五四乃至五六三、六四九、蘭一〇〇二、一〇〇五一、〇六一〇〇九、伊八六二八六三、フューリヒ一〇二、一〇二六、西七六五、八五八八五九、白草八一五八九六九〇二獨一章一七八八乃至一八〇三、同二草一九六〇乃至一九七五)

第十九條 受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサル間遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得

(参照) フューリヒ一〇三五、白草八二四

第十九條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成就前ニ死亡シタルトキ亦同シ但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

(参照) 一〇六五人二取四〇四佛一〇三九乃至一〇四一、伊八九〇、フューリヒ一〇二八、西七九九、白草八二二、八三、二獨一草一七六一、一八六七一八六八、同二草二〇三、二二〇、四七二

○四八

第十九條 遺贈カ前條ノ規定ニ依リテ其效力ヲ生セサルトキ又ハ抛弃ニ因リテ其效力ナキニ至リタルトキハ受遺者カ受クヘカリシ部分ハ相續人ニ屬ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

(参照) 一〇四一二二項取四〇五、佛一〇三九一〇四〇、一〇四三

乃至一〇四五、澳五六〇乃至五六三、六〇四、六五二、六八九伊  
八七九乃至八八七八九一ダラツビュンデン五一一二一項二  
項フハーリヒ一〇一六一〇一八一〇二四一〇二八一〇三  
二西七九九八八八白草八三四八三五獨一草一七九七乃至  
一八〇三一八七〇乃至一八七二一八七五一八八三同二草

一九六七乃至一九七五二〇二九二〇三〇

第十九十六條 受遺者カ遺贈ノ受諾又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ  
死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ

於テ受諾又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ  
反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

(参照)一〇二三、取三九〇一項二項佛八九五一〇〇三一〇一  
〇、一〇四一、ワニリヨ一〇二二、一八七三、三項二〇二八、三項  
一八七三、三項二〇二八、三項三項同二草二〇五〇三項

第十九十七條 遺贈ノ受諾及ヒ拋棄ハ之ヲ取消スコトヲ  
得ス

第千二十四條第二項ノ規定ハ遺贈ノ受諾及ヒ拋棄ニ  
ヲ準用ス

第千二十四條第二項ノ規定ハ遺贈ノ受諾及ヒ拋棄ニ  
ヲ準用ス

(参照)一〇二四獨一章一八七三、三項二〇三九同二草二〇五  
〇、三項

第十九十八條 遺贈ノ受諾及ヒ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時  
ニ遡リテ其效力ヲ生ス

(参照)一〇四一、獨一章一八七三、三項二〇四二同二草二〇五  
〇、三項

第十九十九條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者ノ死亡ノ  
時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ其效力ヲ生セヌ但  
其權利カ相續財產ニ屬セサルコトアルニ拘ハラス之ヲ  
以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限  
ニ在ラス

(参照)佛一〇二一一〇四二、澳六六二蘭一〇一三伊八三七万  
至八四三、八九三、西八六一乃至八六四六六八六九、八七八  
白草八一六八三三獨一章一八四八一八五〇乃至一八五二、  
同二草二〇四〇

第千百條 相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的トスル遺贈カ  
前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナルトキハ遺贈義務者ハ

並

其權利ヲ取得シテ之ヲ受贈者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得スルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ於テ之ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

(参照) 漢六六二闇一〇一四伊八三七西八六二百草八一六獨一草一八四九一八五二同二草二〇四一

第千百一條 種類ノミニ依リテ定マリタル物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ受遺者カ追奪フ受ケタルトキハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコトヲ要ス但故意ニ瑕疵ヲ隠祕シタルトキハ受遺者ハ其權利ヲ行使スルニ代ヘ又ハ之ト共ニ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

(参照) 西八六〇、八六九三號獨一草一八七九同二草二〇五二

二〇五三  
第千百二條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若クバ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リテ第三者ニ對シ債金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル場合ニ於テ遺言者カ第二百四十四條又ハ第二百四十五條ノ規定ニ依リ合成功物又ハ混和物ノ共有權ヲ取得シタルトキハ其共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

(参照) 二〇〇二四八獨一草一八四八三號一八五四同二草二〇四三項二〇四三

第千百三條 遺贈ノ目的タル物又ハ權利カ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シテ其權利ヲ消滅セシムルコトヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

(参照)佛一〇二〇、澳六六二、蘭一〇一二、伊八七八、西八六七、白

草八一九、獨一草一八六〇、一八六一、同二草二〇三六

第千百四條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於  
テ遺言者カ爾後辨濟ヲ受ケ且其受取りタル物カ尙ホ相  
續財產中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シ  
タルモノト推定ス

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財產中ニ其債權額  
ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金額ヲ以テ遺贈ノ目  
的ト爲シタルモノト推定ス

(参照)澳六五八六六四伊八四四、西八七〇、八七一獨一草一八

五五、一八五六同二草二〇四四

第千百五條 相續人ニ對スル權利ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲  
シタル場合ニ於テハ其權利ハ受遺者ノ利益ノ爲メニハ  
混同ニ因リテ消滅セサリシモノト看做ス

(参照)獨一草一八六六同二草二〇四六

第千百六條 遺贈ノ目的タル不動產ニ付テハ受遺者ハ遺

言者ノ死亡後其遺贈アリタルコトヲ知リタル時ヨリ二  
週間内ニ登記ヲ爲シタルトキハ遺言者ノ死亡ノ時ニ週  
リ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

(参照)獨一草三九七

第千百七條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ル  
時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ  
表示シタルトキハ此限ニ在ラス

(参照)取三九二、佛一〇〇四乃至一〇〇六、一〇一、一〇一、一〇一、

二項一〇一五、澳六六六、蘭一〇〇六、三項一〇〇七、伊八六四、  
二草二〇五四一項

第千百八條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺贈ノ目的物  
ニ付キ費用ヲ出タシタルトキハ受遺者ハ第百九十六條

ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス

果實ヲ收取スル爲メニ出タシタル通常ニ必要費ハ果實  
ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ請求スルコトヲ

(参照)取三九三二項三項獨一草一八六〇同ニ草二〇五四二

○五五 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價

額ノ限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ

任ス

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受

クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得

(參照)

澳六五〇、蘭一〇〇九フヨーリヒ一〇三三、西八五八二

項八九、獨一草一八七六二項一八八(同ニ草二〇五七

第千百十條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認

又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者

ハ其減少ノ割合ニ應シテ負擔ノ減少ヲ主張スルコトヲ

得但遺言者カ其遺言ニ反対ノ意思ヲ表示シタルトキハ

此限ニ在ラス

(參照)獨一草一八八二(同ニ草二〇五八

祕

## 甲第七十三號

明治二十九年十二月二十日施行

### 第四節 遺言ノ執行

第千百十一條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知リタル  
後遲滯ナク之ヲ相續開始地ノ裁判所ニ提出シテ其檢認  
ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ  
相續人カ遺言書ヲ發見シタル後亦同シ  
前項ノ規定ハ公正證書ニハ之ヲ適用セス

封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人ノ立會ヲ以テス  
ルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

(參照)取三七一二項三九五一項二項佛一〇〇七蘭九八三九  
八四、九八九、伊九一二乃至九一五、葡一九三二乃至一九四三、  
フューリヒ一〇一〇乃至一〇一四、西七一二乃至七一四、白  
草九〇三九〇四獨一草一九三七乃至一九三九(同ニ草二一  
二六乃至二一三一

第千百十二條 前條ノ規定ニ反シテ遺言書ヲ提出スルコ  
トヲ怠リ其檢認ヲ經シテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外